

## 国際交流① 姉妹都市ディーツヘルツタール(ドイツ)

ディーツヘルツタールは、ドイツ中部のヘッセン州にあり、広大な森林地帯の中にある自然豊かな美しい町です。人口は約6千人(下野市の約10分の1)、面積は約37平方キロメートル(下野市の約半分)です。



### ■「石橋」から始まった交流

ディーツヘルツタールには、シュタインブリュッケン(日本語で石橋の意味)という地区があり、獨協大学名誉学長の石橋長英博士(故人)が旧石橋町と交流の橋渡しをしたことから、両町の交流が始まりました。

1975年4月に姉妹都市となってから、双方の合併後も交流が続いており、2025年には50周年を迎える予定です。

## ■中学生相互派遣事業

3年に1回実施されているこの事業では、いままで下野市(旧石橋町)から8回、ディーツヘルツタールから7回、中学生が相互派遣されてきました。

ホームステイをしながらの学校訪問や町内施設見学、文化体験などが、生徒たちの国際感覚を養う貴重な機会となっています。派遣をきっかけに留学や国際的な職業を目指す学生も出ており、世界に羽ばたく人材の育成に役立っています。

今年はコロナ禍を経て6年ぶりに、合併後5回目となる海外派遣事業が実施され、9月17日から23日にかけて、市内中学校と義務教育学校に在籍する生徒16名が姉妹都市に派遣されました。



一緒に化学の実験に挑む日独生徒たち

フランクフルト国際空港でディーツヘルツタールの皆さんに出迎えられ、ホームステイが始まりました。町内にある自動車博物館の見学やスポーツを通じた交流、現地の学校の授業体験、歓迎会などのプログラムの他、ホストファミリーと過ごす1日やライン川沿いの街への遠出など、充実したスケジュールで、6日間はあっという間に過ぎていきました。別れ際には「帰りたくない」という声や涙ながらに別れを惜しむ姿もあり、生徒たちにとって貴重な経験となったようです。

来年3月には、ディーツヘルツタールの生徒たちが下野市を訪問する予定です。



歓迎会では盆踊りを披露

## 国際交流②

### ミュンヘン大学生の受け入れ

ミュンヘン大学は、ドイツの南部バイエルン州の州都ミュンヘン市にあり、18学部に約5万2千人の学生が在籍している総合大学で、1472年に創設されました。

毎年8月、大学で日本語のクラスに所属している学生が、日本語や日本文化に触れるため、下野市に2週間ホームステイをします。コロナ禍を経て4年ぶり27回目の実施となった今年は、8月17日から31日まで、8名のミュンヘン大学生が下野市に滞在しました。

滞在中は、書道や弓道、下野市の歴史、昔遊び、中学生や自治医科大学生との交流、浴衣の着付け、琴演奏、かんぴょう料

理、ふくべ細工など、様々なプログラムを行いました。その様子は、広報しもつけ10月号表紙に掲載しています。

今年は特に暑かった日本の夏。そんな中、体調不良もなく無事に全行程を終了できました。安堵と別れの寂しさに涙する場面もありましたが、ミュンヘン大学生はもちろん、ホストファミリー、市国際交流協会にとっても素晴らしい交流の時間を過ごすことができました。



昔遊びでおはじきに挑む学生たち

## 国際交流協会 会員募集

市国際交流協会では、随時会員を募集しています。

ご入会いただくと、年に3回発行される会報が届くほか、語学体験講座の受講ができるようになります(別途、受講料がかかります)。また、協会主催のイベントや国際交流員イベントにお安い会員料金でご参加いただけることがあります。

外国や国際交流に興味のある方、外国の方と交流してみたい方は、ぜひご入会ください。

### ■年会費

個人会員	1口	1,000円
学生会員	1口	500円
ファミリー会員	1口	2,000円
法人会員	1口	5,000円